

■ このあたりで一旦ドルの戻りは一巡か？

ドル指数（ドルインデックス）が年初来高値を更新し、昨年12月以来の高い水準にまで持ち直してきている。その結果、ドル/円は110円を意識した展開を続け、一方でユーロ/ドルは1.1900ドルを割り込む水準まで大きく値を下げてきている。

今しばらく、ドルは基本的に高止まりの展開を続けると見られるが、4月半ば頃からの上げがかなり急ピッチだったこともあり、このあたりで戻り一巡となる可能性もあるものと思われる。

言うまでもなく、ドル/円の110円処は極めて重要かつ大きな節目である。

値（あたり）そのものが心理的節目とするにふさわしいうえ、現在は110円付近に他の節目も数多く存在している。

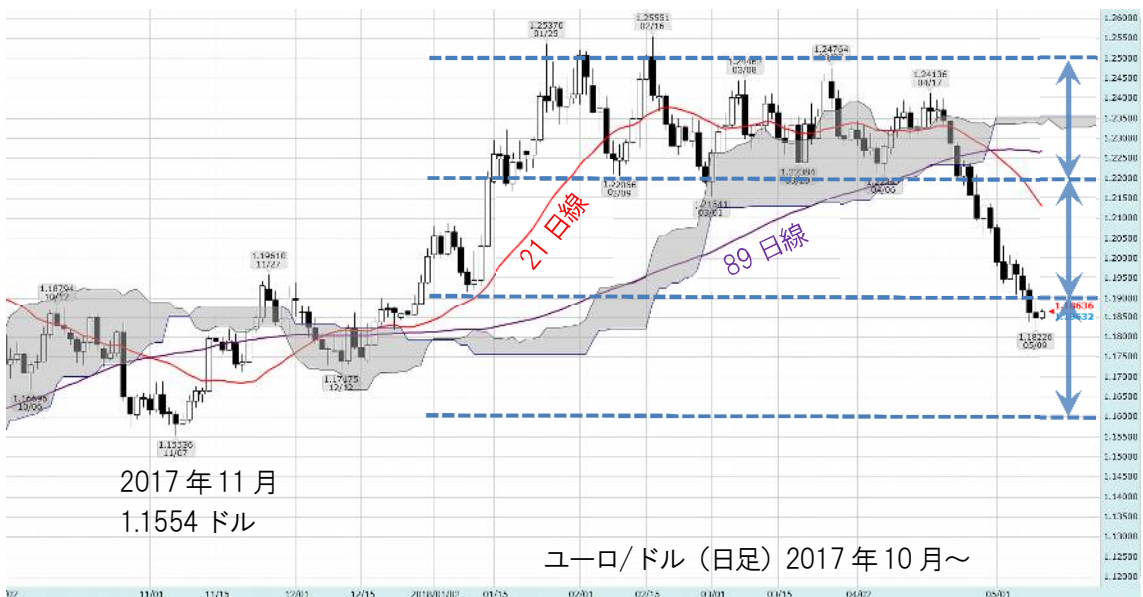
最もわかりやすいのが200日線で、現在は110.18円処に位置。また、昨年11月高値（＝114.73円）から今年3月安値（＝104.64円）までの下げに対する50%戻しが109.70円となる。

さらに、2016年12月高値（＝118.67円）から今年3月安値までの下げに対する38.2%戻しが109.95円で、ほぼ同水準に31週線が位置している。この31週線をクリアに上抜けたとしても、そのすぐ上方には62週線（現在は110.59円）も控えている。

ちなみに、月足チャート上では現在110.05円に62カ月線が位置しており、この62カ月線は今年2月以降、これまでドル/円の上値抵抗として機能してきている。これだけ数多くの節目が存在する110円処は戻り一巡となっておかしくない水準と言えるだろう。

一方、下図に見るとおり、ユーロ/ドルは4月23日に89日線、一目均衡表の日足「雲」下限を下抜け、さらに4月25日、26日に1.2200ドルの節目と3月1日安値（＝1.2154ドル）を下抜けたところから下げに一層の弾みがついた。なお、4月30日あたりには21日線と89日線のデッドクロスが示現し、足下では89日線が下向きに転じ始めるという弱気の流れだ。

5月に入ると、ついに心理的節目でもある1.2000ドル処を下抜け、ほどなく1.1900ドル割れの水準を試すこととなったわけだが、年初から4月下旬まで保ち合いを続けた場面での値幅と同じ値幅を節目の1.2200ドルより下方にとった値が大よそ1.1900ドル割れの水準あたりと考えれば、そろそろ下げ一巡となってもおかしくはない。



ちなみに、2017年11月安値（＝1.1554ドル）から今年2月高値までの上げ幅に対する61.8%押し～76.4%押しは1.1936ドル～1.1790ドルとなる。このあたりで一旦下げ止まる展開とならなければ、次に意識されるのは1.1554ドルということになる。 （05月10日 12:15）